

学びのストーリー（単元の流れ）

1次
総合のテーマ・ゴールを決めたい！

◎総合の学び方を学ぶ

- このテーマにすれば、いろいろな教科の力が使えるよ。
- 仮のゴールを考えて、どのテーマにするか決めようよ。
- 今年の総合のゴールは「見に来てくれた人の思い出になるような楽しい劇にしたい」に決まりだね！

ゴールに向けての計画を自分たちで決めたい！

◎自分たちの力で探究の道筋をつける

- ストーリーを考えなきゃ。 ・劇に合う音楽を作ろう。
- 役割分担したい！ ・道具も作ろう。 ・どんな順番でやる？
- まず、ストーリーを考えようよ。

2次
まずは、ストーリーを考えたい！

◎ストーリーを考えるために必要な情報を収集する

- どうやったら面白いストーリーが作れるのかな？
- 物語を通して何を伝えるかテーマを決めることが大事みたい。
- 起承転結を意識して考えると展開が面白くなるんだね。

◎決まったテーマに合わせて、展開を考える

- お客さんがイメージしやすいよう、身近なことを題材にしよう。
- 他のグループがどんな展開を考えたのか聞きたい！
- どの展開にするか、話し合って決めよう！

◎具体的な場面設定や登場人物を考える

- この展開にするには、こんな場面設定にしようよ。
- 登場人物は〇人ぐらい必要だね。
- だいたいの流れが決まったから、分担できるんじゃない？

役割を分担して、準備を進めたい！

◎グループごとに試行錯誤しながら取り組む

脚本を作りたい

登場人物のキャラクター設定が大事だね。
セリフとト書きを書くのが大変…。
セリフの量に偏りが出ちゃうから調整しなきゃ。
これでテーマが伝わるかな。
よし完成だ！

音楽を作りたい

脚本に合う曲を自分たちで作曲したいね。
みんなに歌詞を考えてもらおう。
自分たちの力だけで作るのは難しいから、プロに聞いてみよう。
BGMや効果音も必要だね。

道具を作りたい

まずは使わない物やいらなくなった物を持ち寄ろう。
これを使って衣装を作ろう。
これは小道具に使えるね。
裁縫や工作をしなければいけないから大変だね。頑張って作ろう。

劇の配役や裏方などの分担を決めて、練習したい！

◎相手意識をもって、作品作りをする

- もっと動作や声に感情を込めないとお客さんに伝わらないよ。
- 音響や照明のタイミングがずれないようにしなきゃ。
- お客さんを感動させられるよう、もっと歌を練習しよう。
- いい作品ができたから、たくさんの人に見てほしいな。

6－2劇場を開いて、お客さんをたくさん招待したい！

◎様々な集客の方法を考え、お客さんを招待する

- Canva でポスターを作って回覧板で回してもらおうよ！
- 校長先生にお願いして、さくら連絡網で保護者に呼びかけよう。
- 全クラスに招待状を書いたり、動画で告知したりしよう。
- 自分たちの劇をたくさんのお客さんに見てもらえてうれしい！

3次
1年間の総合の学びを通して、自分たちにはどんな力がついたのかな？

◎探究的な学びを通して身に付けた力を実感する

- 一つのを完成させるために協力できるようになったよね。
- 「相手がどう感じるか」を考える力がついたんじゃないかな。
- 思いを実現するために粘り強く取り組む力がついたよね。

授業デザイン

響き合う
表面的な話し合いでテーマやゴールが決定してしまわないよう、取り組みたいテーマに対する仮のゴール、メリット・デメリットを考え、比較検討しながら、テーマを絞れるようにしていく。

高め合う
自分たちが目指すゴールに近付くためには何をどんな順番でしたらよいか、グループや全体で話し合い、自分たちの力で探究の道筋をつける。そして、その後の見通しを持って取り組めるようにする。

自己調整
自ら考え、必要な情報を学習用端末や本、インタビュー等の方法で集める。

手立てや概念
子どもの調べた内容を整理して板書し、上手に作品を作る方法を分析させる。

手立てや概念
「どんな主人公が、～に悩みながらも、～という出来事を通して、最終的にどうなる話」という起承転結に当てはめて考えさせることで、魅力あるストーリーを作れるようにする。

高め合う
各グループが出し合った物語の展開で、「一番これがいい」と思うものに絞る活動を通して、意見のズレから、話し合いの熱量を生み出す。

手立てや概念
グループでの活動や準備が円滑に進むよう、人数のバランスを考えたり、活動が停滞した時に助言したりしていく。また、必要に応じて新たな役割を子どもたちとともに考えていく。

高め合う
グループごとに試行錯誤するだけでなく、グループの枠を超えて関わり、他の立場から見てどう感じるかを伝えたり、より関連性を高められるよう話し合ったりできるよう意識的に声を掛けていく。

高め合う
「お客さんが本当に喜んでくれるか」「お客さんに思いが伝わるか」といった視点を持たせることで、自分たちの劇を見つめ直し、改善点を互いに指摘し合いながら、より質の高い演劇に仕上げられるようにする。

手立てや概念
子どもたちの「より多くのお客さんを招待したい」という思いを実現できるよう、必要に応じて支援を行う。

自己調整
様々な集客の方法を考え、それに適したツールを選ぶようにする。

自己調整
1年間の学びを振り返り、自分にはどのような力が付いたのかをメタ認知するとともに、中学校でも探究的に学べるよう動機づけする。

評価規準／評価方法

【思考・判断・表現】

- 総合のゴールに向けた道筋を自分なりに考え、伝えることができる。

【知識・技能】

- 劇のストーリーづくりのために必要な情報を自分なりの方法で調べている。

【思考・判断・表現】

- 各グループが出し合った複数の展開案を比較したり、関連付けたりしながら分析し、どの展開案がよいか判断している。

【知識・技能】

- 脚本、音楽、道具を自分たちの手で制作することは簡単ではないことを体験的に理解し、友達と協力したり改善したりしながら制作している。

【学びに向かう力・人間性】

- 伝える相手や目的を意識して、よりよい劇にするために粘り強く取り組もうとしている。

【思考・判断・表現】

- 劇の開催を伝えたい相手を意識して、放送原稿・ポスター・動画等にまとめ、表現している。

【学びに向かう力・人間性】

- 探究の過程を振り返り、総合の学びのよさを再認識し、今後に生かそうとしている。

願う子どもの姿

- 自分たちで決めた総合のゴールにたどり着くために何をどの順番で行っていくべきか、自分たちで道筋を考えられる姿。
- 活動への強い思いを表出し、話型を越えた自分の言葉での響き合いをすることで、よりよい活動へと高めていける姿。
- 自分たちの思いを実現するために、集団の一員として自分の役割を全うすることができる姿。
- 探究のサイクルを繰り返しながら協働的に学んだことで「自分たちにどんな力が身に付いたのか」を心から実感できる姿。